

## 訪問介護の適正なご利用のために

訪問介護員（ヘルパー）の支援を受けることによつて「掃除や調理をしてもらえるので楽になる」と言われることがあります。例えば、家事をする能力はかなり低下してきているが、住み慣れた家で生活を続けたいと希望する利用者様の場合、ヘルパー利用は適正な手段だと言えると思います。但し、ヘルパーが至れり尽くせり全てやってしまう、というようなことはしません。少しでも利用者様の残存能力が維持できるように、ご自身ではできない部分をヘルパーが補助するという目的を掲げて、支援させていただきます。

例えば、調理では、野菜を

切る等の下ごしらえは利用者様にしていたたく、それが難しい場合は味付けをしていただくという具合です。また、掃除機かけは屈む動作ができないなら、利用者様には座つて雑巾拭きをしてもらいます。そうすることによつて、利用者様の身体機能・認知機能の維持に繋がり、ひいては住み慣れた家で生活を続けられることにもなります。ヘルパーが何でもしてしまうことは、利用者様が生活をしていく上で大切な機会（体を動かす、考える）を阻害する可能性があります。ということですが、利用者様が今までされてきた家事をヘルパーに見守られながら

共に行なうことの重要性はとて高く、ヘルパーにおきましても、専門性が発揮できる状況になります。

キタバグループやすらぎの村では、利用者様がいつまでも生き生きとした在宅生活を続けることができるよう、利用者様のできることでできないことを意識したサービス提供に取り組んでおります。いつでもお気軽にご相談ください。

やすらぎの村

富田林訪問介護事業所長

黒田友美子

